

2021年(令和3年)11月30日(火曜日)

野菜30種栽培 施設にも無償提供

[美幌] 農作業を通じ交流する町内の高齢男性の団体「男談農園」の活動が3年目を迎えた。自分たちが育てた野菜を味わい、グループホームに無償で提供している。人生100年の超高齢化社会を迎える中、「第二の人生」を楽しく過ごす地域のモデルとして、農園のノウハウを広く伝えていきたい考えだ。(阿部誠)

男談農園は2019年、男談農園から「生活支援コーディネーター」を委嘱されてい る太田博美さん(76)が、高齢者の交流の場をつくるうと元町地区で創設した。「男性が集まって談笑しながら農作業。だんだん人が集まる場に」と「男談農園」と命名。教員や自衛官、会社員をしていた会員15人で始まり、現在は50~90代の18人で活動を続けている。

町元町に借りた約340平方㍍の民有地で、今年はジャガイモやパプリカ、ラッキョウなど約30種を栽培

した。苗や種は農家や知人に分けてもらい、栽培方法を教えてもらうこともある。農機具は持ち寄ったり知人から借りたりして、お金はほとんどかからない。

太田さんは、「今年は、同じ元町に休耕地約2640平方㍍を無償で借り、第2農園を開設し

芋煮会やカレーパーティーなど行事も定着した。「和氣あいあいと居心地よく辞めた人はいない」(太田さん)という。

体を動かして健康を維持しつつ交流も図れることから、介護予防に役立つと町も「男談農園」の活動に注目。20年から補助金を支出しており、農園はそれを使つて自主的に畠の持ち主に固定資産税分の費用を払っている。



高齢男性 農作業で交流

した。苗や種は農家や知人に分けてもらい、栽培方法を教えてもらうこともある。農機具は持ち寄ったり知人から借りたりして、お金はほとんどかからない。

した。苗や種は農家や知人に分けてもらい、栽培方法を教えてもらうこともある。農機具は持ち寄ったり知人から借りたりして、お金はほとんどかからない。

した。ただ、これまでの農園の7倍強と広く人手がいることや、生産する野菜も18人で食べるには多い。そこで、町社会福祉協議会が今年1月から始めたボランティア制度を活用することにした。

3775・9050へ。

「男談農園」ノウハウ広げたい

今年メンバー以外で参加したボランティアは1人だけだったことから、町社協は農園の活動を知つてもらおうと、今月27日に町しゃきっとプラザでボランティアの研修会を開催。約40人が太田さんの話に耳を傾けた。

太田さんは、「農園を広めることについて「地方は地価が安く空き地も多く、農業が主産業。高齢者が集まり、活動を始めるハードルは低い」と説明。資金面についても「自治体にもよるが、介護保険に関する補助金で賄うことができる」と話す。

第2農園で収穫した野菜は町内に四つあるグループホームに無償で提供し、地域の人々に味わってもらつた。「グループホームほうゆう」の管理者・茂木要さんは「肉じゃがやカレー、煮物など、高齢の方も喜んでもらいました」と感謝する。

指南書もあり、太田さんは希望があれば直接ノウハウを教える考えだ。問い合わせは太田さん 8090。

3775・9050へ。

2021.10.23 道東（網走・美幌）

美幌の高齢男性 畑仕事で交流



ジャガイモの収穫を楽しむ男談農園のメンバー

【美幌】 農作業を通じて交流する町内の高齢男性の団体「男談農園」の活動が盛んだ。自分たちで栽培した野菜を味わう楽し

開設3年目 「男談農園」

みは3年目を迎え、芋煮会やカレーパーテイーなどの行事も定着。50～90代の男性18人が、認知症予防を兼ねた第二の人生を和氣あいあいと楽しんでいる。今年からは町内のグループに野菜を無償で提供し、喜ばれている。（阿部誠）

トマトなど30種栽培 芋煮会も開催

男談農園は2019年、町から「生活支援コーディネーター」を委嘱されてい

る太田博美さん(76)が立ち上げた。高齢化社会で寿命が延びる中、太田さんは地域の高齢者の暮らしの調整役として、豊かな第二の人生を送るための交流の場をつくろうと考えた。

「男性が集まって談笑しながら農作業。だんだん人

が集まる場に」と「男談農園」と名付け、元郵便局員や元自衛隊員ら会員15人でスタート。町元町に約340平方㍍の民有地を借り、トマト、ジャガイモ、ピーマン、ナス、枝豆など約20種を栽培して収穫した。

3年目になるとオクラやパプリカ、ラッキョウも加わり約30種に。当初は月2回だった活動が、今は毎週月曜の午前中に拡大した。苗や種は農家や知人からもらい、栽培方法など分からることは教わる。農機具は持ち寄ったり知人から借りたりして、ほとんどお金はかからない。農業はほとんど使わず虫食いの野菜もあるが、自分たちが食べる分なので、形も収量も気にならない。

作業、休憩の間に家族のことや世間話に花を咲かせ、畠の横で芋煮会も開くなど、料理の腕も磨く。当

初から活動する町田芳文さん(74)は「みんなで作った野菜はおいしい。わいわい仲良く、毎回楽しい」と笑顔。農場長を務める太田さんは「お互いに認知症を予防し、介護不要の楽しい人生を送りたい」と話す。

今年は同じ町元町に休耕地約2640平方㍍を無償で借り、二つ目の農園を開設。ここで採れた野菜は町内四つのグループホームに無償で提供した。カレーや煮物にして振る舞われ、利用者に喜ばれたという。

男談農園では仲間を募集している。問い合わせは太田さん 090-3775-9050へ。